

## 初の阿武隈山系(大滝根山)、線量測定の日歩き

2014.07.29. 福岡・記

昨年の10月末以来、9ヵ月振りの山歩きである。この間に妻が病に倒れ、山に行けなかったが、7月18日(金)と19日(土)は仕事が無かったので、満を持して福島山旅に出かけた。福島の人々の被ばく線量を少しでも自分自身のものとして感じ取りたいがためである。

福島県は「浜通り」と「中通り」と「会津」の3地域に大別される。3.11のフクイチ事故による放射線量は阿武隈山系によって遮られ、「中通り」と「会津」地方は比較的放射線量は低いとされている。ならば、今この阿武隈山系の線量は、どれくらいあるのだろうかと思ひ、大滝根山に行く。阿武隈山系で1,000mを超える山は、3山しかない。その3山は大滝根山1192.5m、日山(天王山)1054.2m、八溝山1021.8mである。大滝根山は、一等三角点本点No.119の山である。だが、大滝根山の山頂の三角点は、千葉県の最高峰・愛宕山408.2mと同様、航空自衛隊の基地のフェンスの中にあり、(事前に予約、許可が必要)三角点を確認することはできない。

阿武隈高地の最高峰・大滝根山は、東京電力福島第一原子力発電所の西方、ちょうど30km地点にある。大滝根山は知らなかったため、事前にインターネットで調べてみた。

すると、相模原の人で昨年(2013.11.10)この山の線量測定したウェブ(kayamasa12345.web.fc2.com/tozan/ootakine/)を見つけた。

7月18日(金) 私は、磐越西線には数回乗ったことがあるが、磐越東線には初めて乗った。2両の磐越東線の車窓からの眺めは、わが故郷・木次線での眺めと似たところがあり、いい風景を感じた。磐越東線の菅谷駅から今日の目的地・仙台平キャンプ場まで歩き始める。駅から少し歩いたところに[入水鍾乳洞]の大きな門構えの掲示板があった。この地点での、私の腰に付けた線量計(孫正義社長も使用のロシア製 RADEX RD1503 器)は、 $0.15\mu\text{Sv/h}$ を示す。上記のWeb(相模原の人)では、この同じ場所で $0.17\mu\text{Sv/h}$ とある。(この人の線量計は、TERRA MKS-05 器である。)



菅谷駅から2km余り歩いたところに入水鍾乳洞があった。金曜日の雨模様の日なので観光客は誰も居なかった。洞入口の説明文を読んだだけで入洞しないで、また車道まで戻る。そして、くねくねとした車道を約1時間ほど歩き、今日の幕営地・仙台平キャンプ場に到着。このキャンプ場(鬼穴)近くにはかなり広い駐車場があるが、車は1台もない。この駐車場の横には最近設置されたと思われる(上記のWebの写真には無い)富士電機製の線量計(直径約30cm、高さ約1.5m)があった。この計器は、地上約1.5mの高さで $0.190\mu\text{Sv/h}$ を表示している。私の線量計は、腰の高さ約1mで $0.22\mu\text{Sv/h}$ を示す。

16:30 雨降る下でテントの設営を始める。さて、夕食の準備をしよう、とキャンプ場の水道の栓を回すが水が出ない。我が家から持って来た水筒の水1リットルで今晚の食事と明日の登山に備えるしかない。明日(19日)から学校の夏休みに入るので、てっきりキャンプ場は開いているものと思ひ込んでいたのが大誤算であった。取り敢えず、0.5リットルで素うどんを作り、水代わりに25度の焼酎500ccと肴(サラシ、乾き物、など)で腹を満たす。腹を満たし、良い気分になったところで、例の如くハーモニカで『故郷』を吹く。大正3年発表のこの歌(唱歌)(丁度いまNHKの『花子とアン』と同時代)は、なぜか最近よく耳にすることが多い。



仙台平駐車場の富士電機製放射線量計

- (1) 兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川 夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷
- (2) 如何にいます父母 恙なしや友がき 雨に風につけても 思いいずる故郷
- (3) 志しをはたして いつの日にか帰らん 山はあおき故郷 水は清き故郷

私は、この歌の3番の歌詞が一番好きだ。だが、私たちは、この『水は清き故郷』をどうしようもなく汚してしまった。何とも言い難い悲しい思いに沈む。

7月19日(土)4:40起床。慌てて、Attack-Sackに行動食と雨具と残り200ccになった水をペットボトルに移し、



5:00に仙台平キャンプ場を出る。直ぐに山道となる。5分ばかり歩くとまた一旦舗装道路に出る。そこからまた直ぐに山道となる。ここからが本格的な大滝根山・鬼穴登山口となる。ここで小さな沢音がする。さすがに200ccの水では心配なので、沢に降り、少し沢水を足し、300ccのペットボトルを満杯にする。沢水の線量はどれ位か判らないが、2倍に希釈すれば、大丈夫だろうと自分勝手に判断し、良しとする。

更に1時間余り登ると何やらエンジンの音がうるさくなってくる。そして更に50分ばかり登るとそのエンジン音が何であったか判る。フェンスに囲まれた自衛隊基地の中のコンクリート

トの窓のない建物の排気口から真っ黒い排気ガスが出ている。かなり大型のジーゼルエンジンがあるように思われる。雨雲(霧雨)で視界は無いが5,6基のレーダードームがあり、そのレーダーを回転させるためのジーゼル

エンジン発電機があるのでは?と想像する。

ほぼ山頂に近いところに大嶽根山峯霊神社がある。その神社の鳥居の前に神社の由緒を書いた看板がある。坂上田村麻呂創建とあるが、鳥居や神社も苔むした古社の風情は無い。ここから自衛隊のフェンスの回りを10分ほど行くと低木の樹林帯の中に梵天岩がある。この岩にアルミ製の1.5mほどの梯子が備えてある。この岩から東北東70°の方向に東電福島第一原子力発電所と太平洋が見渡せるはずだが、生憎の梅雨の霧雨降る下では、望むべくもなかった。この岩の下・地上1mでの私の線量計は0.50  $\mu$ Sv/hを表示。上述のWeb(相模原の人)では

0.81  $\mu$ Sv/h(2013.11.10.)とある。この梵天岩の樹林の下で残り少ない水で行動食(朝食)を胃袋に流し込む。あとは一気にもと来た道(登路)を降るだけである。

9:15 仙台平キャンプ場に着く。直ぐにテントの撤収にかかる。テントの撤収をほぼ終わりにかけた時、軽自動車と犬が近寄って来た。麓の田村市の大越から来たと言うその人、こちらから何も言わないのに次々いろいろな話をする。「ここでは毎年伝書鳩レースがあり、宮城県仙台から多くの人に来て、四国四万十川からも来る」と。「無事に家に帰巣するのは、元気な若鳥で、全体の1~2割り位だ」と。やたらと伝書鳩に詳しいようなので、「伝書鳩を飼っているのですか」と聴くと「俺はハトは飼っていないが、猫2匹と犬2匹を飼っており、こうしてここには犬の散歩でよく来る」のだと。この後、「このキャンプ場は閉鎖中ですか」と問うと、「このバンガローも3年前に建てたものだが、田村市は避難地域にはなっていないが、風評被害でお客が来ないので閉鎖中だ」と言う。また「この周りは、2度除染作業をしたが、直ぐに(線量が)元に戻るので除染の効



果は無い」のだと。これには本当に胸が痛んだ。

また、くねくねした舗装道路を、雨具(Gore Tex)を着たり脱いだり、傘をさしたり畳んだりの天気の下、あぶくま洞を目指して下山。この間、車に出会ったのは2, 3回だけ。11時過ぎ、「あぶくま洞」に着く。ここの駐車場は、夏休み初日の土曜日の所為か、100台以上の車がある感じだ。大滝根山の山中は、完全な避衆登山であったが、ここではまた都会生活の喧噪に引き戻される。「あぶくま洞」の入洞券は1,200円と高いように思ったが、まだ福島県に来て1銭も落としていないので、入ってみることにする。私は18歳の時、山口県の東洋高圧彦島工業所に入り、新入社員の歓迎ハイキングで秋吉台秋芳洞(カルスト台地)に行ったことがあり、それ以来これが鍾乳洞見学の2度目である。あれからもう半世紀以上の時が過ぎ去った。今こんな場所を彷徨している自分はなんだろうか、と変な感懐をもよおした。

帰りの電車時間が気になるので、先を急ぐ。12:35JR 神俣駅に着く。ここで予定していた帰りの電車まで1時間半ほどあるので、駅前の酒屋で缶ビール、日本酒、チューハイとつまみを買ひ、誰も居ない駅の待合室で、久々の山旅の感傷に耽る。この神俣駅舎の横にも仙台平駐車場と同じ富士電機製の線量測定器が設置されていた。これも設置されてから日が立っていないように思われる。この線量計は、 $0.115\mu\text{Sv/h}$ を表示している。私もその同じ場所に立って自分の線量計を見る。 $0.15\mu\text{Sv/h}$ を示す。約1.3倍の違いである。この差は何であろうか？ 私の市販のHandy-Typeものは、精度が悪いのか、Calibrationの差であろうか。(後日、帰宅し富士電機の線量計を検索してみた。富士電機ではいろんな線量計を作っているようだが、仙台平駐車場とJR神俣駅前と同じものを見出すことはできなかった)

この2か所の線量計には、(私の昔の職柄から)Name-Plateを見て、Short Spec.を見ようと思ったが、それはどこにも付いていなかった。計器には、一般的にName-Plate(Short-Spec.)を貼り付けないのか、福島やその他の原発周辺の線量計には全てネームプレートはないのであろうか。私は、数年前に佐渡島にわが宗祖の足跡を訪ねる行脚の途次、柏崎菟羽原発の周辺を歩いたことがある。ここにも沢山の放射線量計が設置されていたが、この時は、(フクイチ事故前で)線量計など殆ど注目したことが無かった。

さて酒に酔った所為か、注意力散漫だったのか、JR神俣駅で下り電車と上り電車を乗り間違える。磐越東線は単線で1時間半に1本の電車間隔である。それなのにこの神俣駅は14:03発の電車に上りと下りが同時に来るとは、夢にだに思っていなかった。が、磐越東線の終点(始点)の郡山まで磐越東線全線を乗り切るのも良かろうと、また、少し早く帰りたい気持ちもあったので、郡山から新幹線に乗ることに決める。JR郡山駅での私の線量計は $0.16\mu\text{Sv/h}$ を示す。

郡山から東京まで新幹線で1時間余りで着く。田村市神俣駅も郡山駅もフクイチ事故の臭い・気配・雰囲気はどこにも感じ取れない。帰りの電車の車中、久々の山旅の気持ち良い疲れとフクイチ事故と無縁?な都会生活の乖離に微かな疲れを抱きつつ帰途に就く。

(次回のわが山旅は、阿武隈山系の第2位峰・日山(天王山)を目指す予定) [完]

参考資料：[大滝根山・山行記録\(2014\)](#)